



# “捨てずに再利用する” 新技術

— CO<sup>2</sup>削減に効果 —

動き始めた「うるま市バイオマスタウン構想」

「バイオマス」という言葉をご存知ですか？ 一言でいうと、石油や石炭などの化石燃料ではなく、廃材、廃油など、これまで捨てていた元々は生き物由来の資源のこと。うるま市内にあるさまざまな「バイオマス」を有効利用してゴミを減らし、その結果CO<sup>2</sup>の排出量を減らすことにもつながるといって「うるま市バイオマスタウン構想」が、いよいよ実現に向けて動き始めました。

## 津堅島ひまわりプロジェクト

今年の夏、ニンジンの産地として有名な津堅島で、「ひまわり収穫祭」が行われました。

うるま市畜産課では、ヒマワリの種から食用油を作り、さらにその廃油から「バイオディーゼル」を精製し、再利用しようというひまわりプロジェクトをすすめています。が、津堅島の収穫祭はヒマワリの栽培面積を増やし、市民の廃食油回収の意識向上をはかるため

に催されたもの。ニンジンを取った後の3ヘクタールの畑に植えられたヒマワリは、約200人の子どもたちやボランティアによって刈り取られ、種は油に加工、茎は緑肥として利用されます。同課では、市内の各家庭の廃食用油がすべてリサイクル利用されることを最終目標として、このプロジェクトに取り組んでいます。

